1-2．型枠解体屋の民族誌

――建築現場における機械的連帯の意義――

打越　正行*

要旨

本稿の目的は，沖縄のある型枠解体屋で展開される分業をもとに，現代社会における機械的連帯の意義を考察することである．

E. Durkheim は，未開社会から文明社会への社会の変化にともない，その連帯の形も機械的連帯から有機的連帯へ移ると指摘した．そしてネオリベラリズムも，それをより強力かつ急速に推し進めている．彼によると二つの連帯は逆比例的な関係にある．ただ逆比例的とは，どちらかが完全に解体すると片方も同時に解体する関係でもある．これを現場における新参者の適応過程にみた．そこでは有機的連帯が，機械的連帯に支えられ，また機械的連帯を生み出していた．つまりネオリベラリズムは有機的連帯を介して機械的連帯を生み出し，またそれによって支えられていた．ただこの循環は，２つの条件によって成立つ．１つ，小規模集団の班で他の成員とコミュニケーションをとる休憩や移動の時間があること．２つ，新参者の身体を現場仕様にするために必要な研修期間を与えられるための地元の友人の紹介があること．それらによって，段取りの感覚や熟練の技術を習得し，有機型社会としての現場に労働力として配置される．このように型枠解体屋では時間や地元と現場を媒介する友人による紹介，つまり類似性による機械的連帯によって，特殊な能力の有無によらずとも，作業内分業の水準では有機的連帯が形成されていた．そのような条件下で，ネオリベラリズムは成立っている．

キーワード：機械的／有機的連帯，ネオリベラリズム，型枠解体屋

1　はじめに

本稿は，型枠解体屋における参与観察をもとに書きあげた民族誌編と，その民族誌をもとにして，建築現場での分業のありようとその変容を明らかにし，そこから現代社会における機械的連帯の意義を検証する考察編から構成される．本稿で中心的に扱う仮説は，ネオリベラリズムが強力かつ急速に展開している沖縄の下層若者は，主に有機的連帯（分業）で構成される型枠解体屋の建築現場と，機械的連帯で構成される地元や現場の班の二つの世界をいかに生き抜いているのか，というものであ

*社会理論・動態研究所　karp@mail.goo.ne.jp

る．Durkheim は，社会類型の変化に対応する形でその社会的連帯も機械的連帯から有機的連帯へと変わる過程を説明した（Durkheim 1893＝1989）．それに対して，本稿では現代社会における機械的連帯の意義に特に注目する．なぜなら，有機的連帯やそれを強烈かつ急速に推し進めるネオリベラリズムは，機械的連帯の解体を進めると同時に，機械的連帯によってこそ支えられているという両義的な特徴が以下で詳述する民族誌から明らかになったからである．具体的には，機械的連帯が有機的連帯へ変遷すると同時に，有機的連帯は機械的連帯を生み出し，またそれに支えられてもいる．よって，機械的連帯は，沖縄の下層若者たちにとって生き抜くために欠かせないものであるだけでなく，有機型社会やネオリベラリズムにとっても重要なものである．そのような機械的連帯が生み出される条件と解体される条件を以下の民族誌をもとに考察していく．なお本稿で用いる固有名はすべて仮名である．

2　民族誌編

2.1 「１本なら女でも持てるぞ」

型枠解体屋を始めて２日目だった．60（cm）の長さのサポート[1]を運ぶ時にひでにー（兄さん）は，私に向かっていった．「はい，すいません」と元気よく謝ったものの，２本同時にサポートを持てば，ふらふらして歩くことはできない．そこはマンション８階だ．建物の周りに足場はあるものの，足場と建物の間には20cm ほどの隙間がある．足場では安全帯を繋げて作業する人はいない．まだ２日目だが，来るところを間違えたと思った．初日は単純作業でなんとか乗り切ったが，２日目からは他の従業員と鋼管[2]や角材[3]，サポートを建物の内部からステージへ運ぶ「材料だし」に加わった．これが１ヶ月続くと思うと今日辞めた方が迷惑かからないのではと言い訳まで考えた．

型枠解体屋の仕事は建物を壊すのではなく，型枠を解体する仕事である．マンションやホテルをつくる仕事の一部である．マンションは，まず土台を作り，鉄筋屋が鉄筋を組み，その周りに細い鉄筋を組む．そのまわりにコンクリートを流し込む枠を型枠大工がベニヤ板でつくる．流し込むとはいっても将来は石の塊になる液体（比重は水の約2.3倍）なので，その枠の周りを角材や鋼管で強く補強する．柱などは鋼管で補強し，その周りを鎖でぐるぐる巻きにすればいいが，天井はサポートを部屋中に歩けないぐらいの密度で立てて，天井を支える．型枠解体屋の仕事は，コンクリートが固まった後にサポートや角材，鋼管を外し，最後にベニヤ板をはがすことだ．天井のコンクリを支えるための角材や鋼管を落とす時は，すごい迫力だ．下に人がいるとおそらく命はないだろう．この作業をスラブはずしというが，その時は，現場に緊張感がはしる．

しかし実際そのような豪快な作業は一瞬で，ほとんどの時間は，鋼管，角材などを延々と運びつづけることが主な作業内容だ．おそらく人間が重いものを運ぶ時は利き腕の肩の上に載せて運ぶ方法が最も効率的である．それはこの現場で証明されていた．したがって，首から肩にかけての筋肉は，この仕事の７つ道具のひとつといっていい．ラジェット，Sバール，ハンマー，カッター，安全帯，ヘルメット，肩筋．これがないと肩の骨に鋼管が直接ぶつかって一歩ごとに骨を削られるような痛さが走る．繰り返すが，とんでもないところに来てしまった．

私がお世話になる型枠解体屋は，半年以上前から付き合いがあるT町の暴走族チームの大城裕太さんに紹介してもらった．地元のいつものアジト（バイク倉庫）で連中たちとバイクを改造している時に，一緒に働いてみたいと伝え紹介してもらった．この型枠解体屋はその裕太にーにー（兄貴）の

親父さんが社長で，社員が100名程度いる．型枠解体屋で働くのが初めてだった私は暴走族の少年たちにたくさんアドバイスをもらった．「釘踏んだら痛いぞ」，「打越なら一週間もたんはずよ」，「どうせやめるから，道具借りた方がいいやんに，おれ超ロング（作業着のズボン）持ってるから貸してやるよ」，「沖組は坊主じゃないとくるされるよ（殴られるよ）」．みんな通って来た道らしい．私はアドバイス通り仕事の前日に頭を丸刈りにして，そのチームの金城と啓太に教えてもらった道具を買って，初日の仕事に備えた．

2.2 「仕事は楽しくないさー」

2008年２月13日（水）初日．私は朝６時前に起き，事務所に向かい，社長と裕太にーにーに元気よく挨拶した．エスティマが自分たちの班の現場号だ．裕太にーにーが運転席に座り，「新米は後ろ」と一言いわれて後ろに座った．車内には，『チャンプロード』，『実話ナックル』，『ヤンマガ』などの雑誌，そして足袋や作業道具が散乱していた．出発して間もなく，ある家の前に到着．裕太にーにーのクラクションを軽くプップッと鳴らす手つきは，いつもやりなれているようだ．すぐに紺色の作業着で新しい革の手袋を２つ持った達也さんが出てきて，助手席に座る．大きな声であいさつして裕太にーにーが私を紹介してくれた．達也さんは厳つい感じだが，目は優しい同い年だった．そのまま車は次の家へ向かい，クラクションを鳴らすと，もっと厳つい浩二さんが登場．大きな体には似合わない婦人用サンダルを履いた浩二さんのうちなーぐちは強烈だった．あいさつしても反応は薄く，無口で少しビビッた．最後にパチンコ屋の駐車場で待機していた翔さんを乗せ，裕太にーにー班の現場号は合計５名で出発した．

達也さんは，私の名前を聞いてくれて「同い年だから達也って呼べ」といってくれる．私はなんども正行という名前を言ったが，この日は会うたびに「名前何だったっけ？」と聞かれ「正行です．新米でもいいですよ.」と答えた．他の作業員からは，「おい」，「ないちゃー」，「ガンチュー（めがね）」と呼ばれたので，初日から名前を呼んでもらえることは，嬉しかった．達也さんは裕太にーにーと同じＳ商業高校で，裕太にーにーが卒業した時は２年生だったが，裕太にーにーが働きはじめるのをきっかけに自らも高校を辞めて，一緒に仕事をはじめた．２人とも解体の仕事は10年目．裕太にーにーが達也さんを自分の教育係に指名してくれる，特別待遇をとってくれた．

Ｒ町Ｂ地域の雑貨店隣に建築中のマンションが今日の現場だ．さっきまでの車内のリラックスしたムードは一転し，ビルの一階でラジオ体操が始まった．私にとっては，立入り禁止の現場に入ることが初めてだった．騒音やホコリの対策で現場は隣の建物や世界と隔離されているが，それだけではない外の世界と中の世界を区切る必要もあるように感じた．ラジオ体操を終え，現場の班長に自分らの班の人数と名前を伝え７階にあがり現場の班長の指示を待つ．他の従業員は指示を待ちながらも外せる型枠やサポートの整理をしている．指示が出る前の無意識のうちに行われているこの軽作業が，現場での本当の準備体操である．そうこうするうちに，私たちの班はもうひとつのＲ町Ａ面のマンションに移動することになった．そこにはとても大きな建物が２つでそれぞれ８階建だ．最初は右側の建物の６階で鋼管を運んだりしていたが，上の階に連れていかれＰコン[4]などの単純作業をすることになった．単純作業に見えた作業も，実は奥が深い熟練作業であった．外せないＰコンの取り方を同じ沖組の山城さんは無言のまま実技で見せてくれた．無言で「おまえ何のためにドリルとラジェット持ってるば」といわれたようだった．午前中は，それで終わった．

昼明けも最初は，Ｐコンを続けて，途中から角材の材料だし[5]に参加する．鋼管，角材，サンギ，

チリを長さや種類をそろえて搬出．ここで，裕太にーにーの段取りのよさ，リーダーシップに遭遇した．自らも作業をしながら全体の流れを細かく指示する．また10年のベテランだけあって他の従業員の仕事の量とは格段に違う．「健二，なにやってるば」，「おい，サンギの長さ分けとけよ」，「誰かー，釘が刺さったサンギちらかしたのは？踏んでも知らんよ」．叫ばれた方も，裕太にーにーの指摘が的確で正しいことばかりなので反発することなく指示に従う．３時の休憩をとる予定だったが，なくなった．現場は，釘が飛びでたサンギと角材がそこらじゅうに落ちている．作業に集中しながら，いつか釘をふむんだろうなと考えた．もちろん気を付けて歩くが，一歩ずつ気を付けていたら，作業の流れについていけない．そしたらいつのまにか，なんとなく大丈夫だろうと注意しなくなっていた．みんなこういう感じで釘踏むんだな．

作業が終わり，掃除が終わったのが６時．初日から残業だった．帰りは裕太にーにーと２人きりの現場号で帰った．「仕事きついですけど，終わった後は達成感とかやりがいもあるんじゃないですか？」，「はあ？仕事は楽しくないさー」．私の予想とは異なる言葉だったが，やっぱ仕事なんてできたらやりたくないよなと現実に帰る．変な幻想を抱くなと自分に釘をさした．

2.3　使えないヤツからも徹底的にとる「やさしさ」？

２月14日（木）２日目．あっという間に朝になった．今日は，達也さんたちは久米島に行ったので，普通車のカローラでＲ町のファミマに寄って現場へ．Ｒ町Ａ地域の現場の駐車場に到着．今日は裕太にーにーがラジオ体操のサボり方を教えてくれた．８時の朝礼をサボり20分過ぎまで車内で過ごした．８時20分過ぎに７階の現場に行く．昨日も一緒に作業したひろしさん，健二さん，ひでにー，シュンさん，目を怪我してる暴走族少年，Ｈ町の小さくても仕事覚えるのが早い17歳の少年と一緒の現場だ．

最初は，８階の釘抜き[6]をひろしさんと延々とやった．ひろしさんは24歳で今は彼女はいないがイケメンの力持ちだ．月曜から土曜まで働いて給料は月20万という．少ないけど仕事がないよりはましといっていた．他の同僚もほぼ同じで，内地に行けば１日１万あるけどやはり沖縄からは離れたくないらしい．２人で話していたら，サポートを運ぶ作業に加えられた．長さも種類も異なるサポートを分別しながら運ぶ．サポートを分別する人，持ち上げる人，次の人に渡す人，ステージに組みやすいように向きを変える人，ステージで組む人の５人で，横８本の６段を８セット，合計約400本をバケツリレー方式でステージへ運んだ．バケツリレーは流れ出すと止めることができないのできつい．400本運んで休みの合図がでたので12時と思ったら，まだ10時休憩だった．飲み物を健二さんと１階まで買いに行く．疲れた体にはエレベーターがまだ設置されていないマンションの階段はきつかった．休憩中に健二さんと，裕太にーにーにタバコの吸い方を習う．１本吸ってみたが，吸えなかった．

昼休みは社内で睡眠．起きたら１時10分，やばい遅刻だ．現場では，かなりの急ピッチでサポートの材料だしをしていて，すぐに加わる．しかし眠っていた体がそのペースについていけるわけもなく，途中で交替させられた．ステージに組んだサポートや鋼管は下にいるクレーン車と連絡をとりながら荷物をおろしていく．そのクレーン車が使える時間が決まっているらしく，昼明けは急ピッチだったらしい．一段楽すると，「手が震えてたさあ（笑）」と裕太にーにー．鉄の柱の移動を担当するが，２本持ちがきびしく１本でやってたら，ひでにーが，重心と肩の使い方を教えてくれる．シュンさんも腰で上げずにということをアドバイスしてくれた．それぞれ持ち方は違うようだ．つまり自分

で覚える必要があるようだ．２人とも丁寧に指導してくれたのは，自分が裕太にーにーの紹介だからなのかどうか．裕太にーにーはことあるごとに沖組の従業員に私を紹介してくれた．ありがたい[7]．

この日，材料だしのサポート運びを各自がバラバラにしていた時のこと．作業の遅い私がいるとどうしても後ろの人がつっかえる．それをみてシュンさんが，リレー方式にかえてくれた．各自がサポートを室内からステージへに移動させる作業から，列を作って次の人に渡していくバケツリレー方式に変わったのだが，これは使えない私をできるだけ有効に使おうとしたのか，それともシュンさんの自分への優しさなのかということを考えた．バケツリレーの方は，見方によれば使えない私をそれでも根こそぎ使おうとすることのようにも見えるが，少なくともそこで私は，当面は現場にいても許されるように感じた[8]．

次の日は，裕太にーにーと今日の現場のＲ町高校に移動．移動中にいろいろと話をした．裕太にーにーは，Ｓ商業高校を１年の時にダブって４年で卒業したこと．入ったクラスは，ほとんど女子で男子がたった８名．男子のうち５名はいじめて辞めさしたという．残りの３名中２名が暴走で停学になって裕太にーにーが１人になった時期があって辞めさしたのを後悔したこと．「高校の時が良いなあ」と高校時代を振り返っていた．当時の夏休みはいつも親父に沖組で働かされた．高校入試の時は数学の４問しか解かず，面接は忘れたようだ．だから落ちると思って作業着買って働く準備していたら合格した．ただ１年目の１学期は停学ばかりでほとんど学校に行かず，逆に２年目以降は，１学期は完全に休んで２学期以降は無遅刻無欠席という荒技を決行．ギリギリ単位が取れたが，そのせいでＬ市の友だちの葬式や，39度とかの風邪でも学校にいかなければならなかったようだ．なぜ最初に2/3だけ出席して残りを休まなかったんだろうか[9]．

その会話中に，裕太にーにーが「おれは解体屋しかできない」と言った．意味がわからなかった．世の中に型枠解体屋で働くことのできない人はたくさんいるが，その逆は裕太にーにーくらいだ．今までにガソリンスタンドと居酒屋で働いた経験があるようだが，ガソリンスタンドは，ガラスの磨き方で店長とケンカして，飛び蹴りしてやめ，居酒屋も指示されるのが嫌でやめたらしい．そういう裕太にーにーは，現場でいつも健二さんを叫び散らしている．

2.4　エイサーでのトラブル

２月19日（火）５日目．久米島から帰ってきた翔さんを除く達也さん浩二さんと，運転手の裕太にーにーと私の合計４人でＮ町の現場へ．浩二さんと達也さんは島から帰ってきて動きがいい．スラブをどんどん落としていって，「ガッシャーン」というその音からも現場の活気が出ていた．２人が落としていった角材，鋼管を山城さんとＨ町の正輝と整理し，ステージ付近まで運ぶ．正輝はＳ県出身の父親の息子で17歳．今は，学費年間120万の通信制高校に通っている．中３の受験の時にＫ農林高校を受験するも，受験当日に同級生と正輝は長ランと金髪で受験し，不合格．バカだなあと思うけど，今その話を私に嬉しそうに話してくれていることを考えたら，これでいいのかもとも思った．

また正輝は，昨年参加したエイサーの青年団で意味もなく殴られ続けたらしい．しーじゃー（先輩）から4,000円借りたのに，くるされて（殴られて）いつのまにか５万円要求されたらしい．家の前まで来られておどされて，Ｔ町のゴルフ場の駐車場でくるされた．足から血が出るまでやられた．ちょうど友だちみんなが内地にいってて，一人で入ったからやられたという．結局お金の件は，私もよく知るＡ市で一番のバイク乗りで，調子者でロリコンの大山に仲介してもらい解決したようだ．

大山はバイクに乗っている時と後輩の面倒みているときが一番カッコいい[10]．正輝はこの型枠解体屋に友だちの紹介で入ったが，その友だちは既にやめた．同じ班に同世代がいないようで，28歳の私に親しく話しかけてくれた．正輝は仕事中もずっと話しかけてくれた．他の従業員に注意されそうだったので，自分がその前に注意したが，その気持ちはよくわかった．

今日も無事に仕事を終え，N町からT町の事務所に帰った．だいたい30分くらいかかる移動時間は至福の時だ．達也さんはチキン片手に500mlのサザンスター（オリオンビール）で，浩二さんはタバコ片手に1日の疲れをとっている．裕太にーにーだけが運転手として事務所まで気が抜けない．私も明日のことなんか考えずにとりあえず今日も怪我せずに終わったことをひとりでお祝いした．明日は，裕太にーにーがL市にバイクの部品を買いに行くので，裕太にーにー以外でこの班は動くことになった．私にとっては，裕太にーにーがいないことは少し不安だが，まあ紹介で入らない新しい従業員はみんなこんな感じで始めるわけだから，明日こそ頑張るぞと気合いを入れた．この班で今日の作業中に達也さんとは溶け込めてきた．この勢いで浩二さんにも話しかけてみた．「明日は7時に事務所で良いですか」，「知るか，達也にきけやー」，「あっ，はい」．浩二さんとはなかなか親しくなれない．帰りの車内で，裕太にーにーが私のことを浩二さんと達也さんに詳しく紹介してくれた．暴走族を毎晩追いかけてる変な大学生だということ，調査のノートにたっちゃんの小遣いがないことまで記録していたこと，大山がM市C地域交差点で顔を隠して暴走していた時に私が大山の名前を叫んであふぁーだった（びっくりした）こと，先週T町の後輩にハイビスカスという飲み屋に連れて行かれて私がおごらされたこと，昨日現場でひでにーにサポートを1本しか持たずに怒られたこと．その話を聞きながら達也さんが「正行はわらわさー（おもしろいやつ）だな」といってくれた．やっと自分の名前を覚えてくれたようで嬉しかった．また浩二さんも「こいつ（頭）きてるな」といいながら，少しだが笑ってくれた[11]．

浩二さんを家まで送った後，達也さんが「仕事覚えたか？」と聞いてくれた．「だいたい，仕事の流れはわかってきました．型枠作って，コンクリいれて，サポートとって，鋼管はずして，Cボルト，Pコンの順番ですね」，「いうのは簡単よ，実際やってみ」と言われた．その通りで，その作業はたくさんの業者が何ヶ月もかけて行う仕事内容だ．裕太にーにーがそれに続いて，「シュン（先日の班長）と自分に，スラブはずしみて『気持ちよさそうですね』っていうのに（笑）．今度やらしてみようかな・・．あれがきついんだよ，シュンはあれで首こわしてるよ」．おふたりのおっしゃる通り，型枠解体屋の現場で楽な仕事なんてありません．新米は新米の仕事をちゃんとしますといい，なんとかゆるしてもらえた．つい調子に乗って余計なことを言ってしまう．「解体屋が（建築現場に集う左官や鳶などの業種の中で）1番きついのによ」とは2人の言葉．「左官屋や型枠業者は，確かに力より技術って感じですね．だけど材料だしの時の段取りは，力だけじゃなくて相当技術と経験がいる仕事ですよね」．2人同時に「そうよ．気付くの遅いよ」[12]．

2.5 遅刻はない解体屋

2月20日（水）6日目．ついにやってしまった．慣れてきたところで作業着の上着を忘れてしまい，宿舎に引き返した．そのせいで7時の集合時間の6分後に到着．こんな時にかぎって裕太にーにーは休み．いつもは少し遅れるので今日も遅れていることを願うも，30分経過したので，裕太にーにーに連絡したらすでに事務所出発したとのこと．仕方がないのでT町からN町まで原付で向かった．30分ほどかけて現場に到着すると，ラジオ体操が始まっていた．すぐにバイクを現場の端にとめ

て，沖組の体操の列に入った．体操終了後，達也さんに何度も丁寧に謝った．しかし達也さんは，「よくひとりでここまで来れたな」と一言．達也さんは7時に事務所について，いなかったのですぐ行こうと思ったけど，5分まで待ってくれていたようで，ほぼすれ違いだった．これまでも翔さんや浩二さんが連絡せずに休むことはあった．その日の朝に家まで迎えに行きクラクションを2回鳴らして出てこない時は休みという意味で，電話をしたりドアをノックしたりはしない[13]．この業界は今の2月が1番仕事の少ない時期だ．なぜなら新学期の4月に建物を完成させるには解体は少なくとも1月までには終了させて，2月3月で仕上げや内装をするからだ．よってこの時期を除いて，基本的にいつでも仕事はある．だから，長年働く浩二さんたちは二日酔いで朝起きるのがきつかったら休むし，起きるのがだるかったら休む．休むかどうかは朝になってみないとわからないので，このような無断休暇が起こる[14]．もちろん私の場合は，いてもいなくてもいいような労働力であることが1番の理由だが，この型枠解体屋では仕事はわりと常時あって従業員が都合にあわせて働いたり休んだりといったことがなされている．だから，寝過ごしたり遅刻したりしたら休めばいいし，それを事務所がうるさく言うことはないので，なぜ遅刻したのにわざわざバイクできたのかが，達也さんには不明だったようだ．

2.6　高所での作業に慣れる技

体操と本日の作業確認をして，ヘルメットと作業セットを現場号からとって仕事に参加．浩二さんから「残すなよと」と声をかけられ，午前中は4・5メートルの高さのPコンをとる．脚立などで作業していたら，他の作業に邪魔だし埒があかないので，まだ取り外されてないサポートの2メーターくらいの高さにバンセン[15]で鋼管を部屋中に固定し，その鋼管の上を動きながらPコンをとる．縦方向の鋼管はバンセンで固定されているためどこを踏んでも大丈夫だが，横方向の鋼管は縦方向の鋼管に載せてあるだけなので，端に乗ると落とし穴のように落下する．基本的にPコンは壁のネジをとる作業なのだが，左手でサポートを持ち，体を支えて，右手でドリルを持つと外したPコンを受け取り袋に入れることができない．隣では山城さんが鋼管のジャングルジムの上を地面と同じように縦横無尽に動き回り作業をしている．この4・5メートルの高さというのがくせ者だ．もし地上8階建てならそれなりの落下しないような措置がとられるが，ここでは山城さんのように軽快に動けて落下することなど滅多にないし，仮に落ちても軽症だからこのような1本の鋼管の上で作業することになる．先日Pコンの時にサボった時のようなだらけた気持ちは全くなく，常に緊張感を持ちながら午前中は作業を行った．作業中に他の部屋で緊急にCボルトを外す作業を頼まれる．喜んで手伝いにいった．

昼空けも午前に引き続き，PコンとCボルト．作業中に伊礼さんが声をかけてくれた．「おまえ高いところ苦手だろ？」，「はい」，「みてたらわかるよ（笑），（サポートを抱え込む自分の格好をしながら）こんなしてるのに」，「はーー」，「いい方法教えてやろうか？」，「はい」，「1回落ちたら，怖くなくなるよ．こんなもんかって（笑）」．笑えないが，みんな通ってきた道らしい．骨折し，腕がありえない方向に曲がって初めてこの現場で技術を獲得できると教えてくれた[16]．

なんとか3時休憩あたりで高所でのPコンを全てとり終わった．地面に降りると自分の体が軽く感じた．その後は浩二さんとあきらさんとベニヤの材料だし．流れ作業で材料だしを行うが，その時は体の使い方は最初に試行錯誤しながら，とりあえず1番いい形を見つけていく．できるだけ慣性の法則を用いて，自力による上下運動を避けて次の人に渡す．ここには単純作業と，創造的な活動が入

り混じっている[17]．この作業中に浩二さんと話すことができて，少し認めてもらえた感じがしたので，作業後に思い切ってまた話しかけてみた．「浩二さん，（足場を補強する）棒が１箇所はまらないんですけど・・」，「明日どうせまたはずすのに，いいよそのままで」．このやりとりが，その日１番の収穫だった[18]．

2.7 「いいかげん仕事覚えろや」キック

２月22日（金）７日目．今日は，前日に遅刻したために５分前に事務所に到着．裕太にーにーたちは米軍の現場で，自分はＲ町高校が今日の現場．ひとり原付でＲ町高校をめざした．迷いながらもなんとかついて，シュンさん，ひろしさん，喜屋武さん，Ｙ県出身の青年，山城さんで，部室付近の土台と壁の解体をおこなう．昨日までのＮ町の現場と比べると，小さいし人数も十分なので仕事がどんどん進む．ジャガネをとって，鋼管外して，サンギをはいで，Ｃボルトと Ｐコン．それぞれの材料を大きさと種類に分けてまとめていく．前日仕事を休んでいつもより汗を多めにかくが，作業は順調にすすんでいた．鋼管を長さをそろえてまとめている時に，事件は起こった．私がまとめた鋼管のまとまりを山城さんが蹴り上げて崩した．「ガチャーン」，意味もわからず戸惑った．山城さんは蹴り上げた鋼管を再び縦５本×横10本の，まとまりに組んでバンセンでくくった．私のミスだった．裕太にーにーに教わったのに，１日休んだくらいで６列目まで積んでいた．この「いいかげん仕事おぼえろや」キックによって，目が覚めて初心に返る[19]．作業は10時までには終了し，Ｎ町の現場に移動しながら休憩．この日はバイクで移動のため休憩はなしだ．

Ｎ町の現場には健二さん，トモさん，真司さんなどが作業中．材料だしをしていたら，裕太にーにーたちも到着し，まもなくＮ町の現場に再度移動．今日は移動が多い．４階の解体作業中に大きいバールでベニヤをはがさせてもらった．この大きいバールは，個人で購入した所有物だ．つまり新参者は持つことができないので，これをもっていることが現場ではひとつのステータスになる[20]．裕太にーにーが「やってみろ」って感じでやらせてくれたが，全くうまくはがれない．そのまま笑われながら，昼休み．

昼明けも材料だし．黄色いサングラスの城間さんの指示のもと，若いにいちゃんと健太さんと自分の４人でサポートを搬出．あっという間に３時休憩．飲み物を飲みながら，ナオキさん，裕太にーにー，達也さん，あきらにーにーたちと談笑．だいぶ筋肉ついてきたじゃないかと冷やかされて，達也さんと腕相撲勝負．裕太にーにーがバンセンで剣山を作り腕相撲の場所に設置した．どっちが勝つか賭けをしようとしたが，私に誰もかけずに賭けが成立しなかった．そして残念ながら負けた[21]．

昼明けは，達也さん，健太さん，裕太にーにーたちと再び材料だし．裕太にーにーと達也さんのスピードは，あいかわらずすごい．サポートを下の階に降ろすとき，自分が上の階から下の階のあつしさんに渡す時に交替を命じられた．もし落下したら大怪我するので，あつしさんによって変えられた．現場ではヘルメットをかぶっているので，落下物によって大きな怪我をすることはあまりない．むしろ物の落下は頻繁に起こることなので，足場付近ではむやみに上を見ないことが重要だ．上の階で鉄筋の溶接作業が行われている時は，常時，花火のようだ．こんな時には絶対に上を見たらだめだ．型枠解体屋にとって怪我はつきものだからこそ，怪我を事前に避ける臭覚みたいなものが重要である[22]．

2.8　監督＜現場

２月28日（木）８日目．風邪をひいていた自分にとっては５日ぶりの仕事．今日は浩二さん以外の成員でＲ町の現場．裕太にーにーはあいかわらずラジオ体操を休む．裕太にーにー曰く，ベテランだけができる特権らしい．久しぶりの仕事でなかなかやる気がでなかったが，裕太にーにーや達也さん，翔さんの仕事への切り替えは早い．10時までは，ピリピリした雰囲気で作業を行った．なかなか仕事を覚えない私に，裕太にーにーもいいかげんイラついていた．隣ではスラブはずしが行われているが，何度みてもすごい迫力だ．この瞬間だけ，みんなが声を掛け合い確認しながら作業を進める．私はその隣でサポートや鋼管を運んだ．翔さんがサポートの立て方を教えてくれた．私のやり方では倒れるので，倒れにくくたくさん立てられる方法を教えてくれる．「下を押さんと，だめよ」．優しい言い方ではなかったが，無言で教えられる現場ではかなり丁寧な指導だった[23]．

裕太にーにーは，廊下の端で立ち小便．これもベテランの特権らしい．現場には１階にしかトイレはない．もちろんエレベーターもない[24]．その後に，屋根のベニヤはがしをやらせてもらう．「だあ，ここの天井やってみ」，「いいんですか？」，「簡単だと思ってるでしょ．これはがせたら１万円あげるよ」．このベニヤは狭いトイレの部屋の囲われたところで台形の形をしている[25]．どんなに狭くても天井のスラブは，１枚でははがせないので，２枚のベニヤで作られている．その間に大きいバールをさし込んで，テコの原理ではずれるはずなんだが・・．実際にやってみると，作業中はずっと上を向いているのでシュンさんのいう通り首は痛くなるし，木屑やコンクリのホコリが容赦なく目に入ってくる．やっと切り込みにバールを差し込んだものの，この部屋には梃子の原理を使えるほどのスペースがない．大きな部屋のスラブはずしは，きれいにはがれ落ちていくんだが，この部屋のベニヤは固定されている．しかも両サイドの壁に天井のベニヤがくいこんでいて，これでははがれるわけがない．しょうがないので，バールをさしこみ自分の体重で引っ張るが木屑ばかりが落ちてきてベニヤ板は強く固定されたままだ．30分粘ってあきらめた．悔しさよりもこれをどうやってはがすのか見てみたかった．裕太にーにーは，ベニヤを壊しながら，２・３分できれいに外した．なるほど，はがすのではなくベニヤを壊して外すのだ．うまい人ならここまで半年でできるようになるらしい．それでも半年もかかるのかというのが率直な感想だった．初日から感じているがこの仕事奥が深い．

そのまま，昼休みに突入．いつも通り弁当食って，ゴミ捨てて，飲み物飲んで，昼寝．この昼寝が最高に気持ちいい．昼明けは，引き続き釘抜きをして，その後にナオキと裕太にーにー，達也さんの４人で材料だし．いつもは材料だしのバケツリレーの間に入っていたが，この日は60のサポートをステージで設置する係を任せられる．かなりの英才教育でありがたい．しかし，私がいなくなったバケツリレーはスピードがかなりあがって，私はそのスピードについてステージに60のサポートを組むことができない．申し訳ないが，１度作業をとめてもらった[26]．この日の材料だしは，サポートの種類や長さも，鋼管の長さもベニヤの大きさも，バラバラで作業が難航した．裕太にーにーも困っていたが，なんとかステージに設置することができ，きりが良いところで３時休憩．

休憩時間中に，なぜか150の鋼管を何本持てるか競争が始まった．わたしはかろうじて６本を抱えて持った．９本もチャレンジしたが，どうしても３×３の真中に入る鋼管をはさむ力が弱く抜けてしまう．続いて達也さんは３×４の12本．ナオキも12本持ったが，持ち方が独特で裕太にーにーと達也さんは驚いていた．この現場では仕事は教わるんではなくて，自分で学んでいく能動的なものだ．なので，各自が１番楽な持ち方を，習得していくので，このようにベテランのナオキでも独特のやり方で作業をしている．最後に裕太にーにーが４×４の16本を運んで見せた．なかにある４本の鋼管をは

さむ力で抜けさせないのにはビックリした．続いて，サンギを足でおるマッチが始まるが，さっきの裕太にーにーの圧倒的すごさにみんなひいてしまって，あまり盛り上がらなかった．裕太にーにー曰く，たっちゃんはベニヤを同時に10枚持つらしい．怪物だ[27]．

休憩明けにあるトラブルが発生した．この現場にはステージが２つあるが，もうひとつのステージがあるべき位置より高く固定されているということらしい．たった１メートルほどの違いであるが，その１メートルで材料を出す出口は狭くなり，材料を余計に上下運動させなくてはならない．１つの部屋から出るサポート，鋼管，サンギ，ベニヤなどの量はとても多いので，ステージを固定しなおす方が，断然楽だ．しかし，型枠解体屋８日目の私でもわかるほどにステージの位置は高く固定されていた．ステージを設置する業者と解体する業者が分業されていることの弊害といえるかもしれない．30歳半ばくらいの現場監督がステージの高さの変更についての確認にきた．ちょうどその時，達也さんがくわえタバコをしていて，達也さんは「タバコ」と一言注意された．達也さんは火を消さずに，タバコを隠した．現場監督は今日の班長のシュンさんにくわえタバコのことを注意して，そのまま降りていった．確かにくわえタバコは毎朝の朝礼の確認事項で何度も禁止事項としていわれていることである．しかし，現場では監督より型枠解体屋の方が力はある[28]．仕事をきちんとする型枠解体屋というのは，なによりもこの業界で信頼される．そして，われら沖組は孫請けの解体のなかでは社員が多く，多少仕事は粗いものの，きちんと仕事を期間内に済ませる．そのようなことから，この日のように明らかに現場監督のミスが生じた時に，くわえタバコ程度で注意した光景は滑稽だ．達也さんの「いいから早くステージを組みなおせよ」という表情が，現場での力関係をあらわしていた[29]．この日の作業は，このことから少しトーンダウンして終了した．裕太にーにーも疲れていたので，自分が現場号を運転して事務所へ帰った．

2.9　やっと一人前？

２月29日（金）９日目．今日はフルメンバーで，R町A地域の現場だ．８時からの朝礼とラジオ体操後にバランス感覚のテストがあった．バランス感覚のテストか，大事なのはわかるけど，なんか違う．たぶん，大学の先生が作ったプログラムだと思うが，バランス感覚はこのように身に付けるのではない．伊礼さんがいつか教えてくれたように，１度高所から落ちて体で覚えるのが現場のやり方だ．朝礼のあとの午前中は60のサポートを３部屋分ひたすら運ぶ．運んでも運んでも数が減らない．５・６人で運んでいるんだが，部屋に戻ってもサポートが減っている気がしない．ただこの日は，がむしゃらに２本のサポートを何度も運んでいるうちに，やっとコツを獲得できたようだ．以前なら60のサポートを２本持てなかったのに，いつのまにか普通に持てるようになっていた．私が獲得した方法は，２本のサポートを平行にせずにねじって持つという方法だ．こうすると肩には２本同時に接するので，骨への痛みが軽減し，バランスもよく２本の一体感もある．そしていつのまにか７つ道具のひとつである肩筋もついていた．やっと現場にいてもいいような気がしてきた[30]．

やっと３部屋分のサポートをステージ付近にまで運び終わるも，実際はまだ10時にもなっていなかった．現場で仕事していると，時間の感覚がつかめなくなる[31]．

なんとか午前中まで怪我せずに作業終了．昼飯を食っていたが，裕太にーにーの携帯がなる．嫌な予感は的中し，自分たちの班は，N町の移動に移動．おそらく裕太にーにーは社長の息子なので１番現場移動が多い班だと思う．自分らは沖組で最も流動的な労働力だ．12時半から移動して１時ぴったしに現場に到着．一郎さん，真司さん，朴さん，そして黄色いサングラスの城間さんも今日はN町．

私が現場に入ると，あるおっちゃんがとても丁寧に指導してくれた．だいぶ仕事を覚えてきた自分に最初の基礎から丁寧に教えてくれた．Cボルトを抜く時に怪我しそうな場面，作業を早くする裏技，そして現場ではみんな知っているけど今まで自分が知らなかったことなどなど．ほとんどワンツーマンで教えてくれてとてもありがたかった[32]．おっちゃんは政治にとても興味があるひとだった．私が大学生だということを聞いたらしく，「いつもは車のなかで政治の話してるのか？」とおっちゃん．翔さんがうなずいたので，「いつも女の子の話ばっかりじゃないですか」と正直に話した．

帰りは自分が運転して事務所まで帰る．裕太にーにーは助手席に乗り，特に指示がなかったので国道を南下してると，「ローソンは？」と裕太にーにー．「えっ，よるんですか？」，「あたりまえさー，いっつもよってるでしょ」，「すいません」．この世界は新参者にも今日のおっちゃんのように言葉で確認したり指示することはあまりない．いつもやってることをなにもいわずにできるようになる必要がある[33]．ファミマじゃダメですかと尋ねるも，いつものローソンで各自いつものサザンスターと，チキンとコーヒー牛乳でないとダメだといわれた．帰りはいつも女の子の話で，最近マックの定員にかわいい子が入ったとか，女の子と遊んだ話をみんなでしながら帰る．そのなかで，昨日までの５日間の連休は，裕太にーにーの作戦だったことが判明した．実は，仕事があったけど社長である父が裕太にーにーに仕事を頼むと「もう休みって（班のメンバーに）電話した」といい，休みにしたらしい．作業についていけない自分だけ仕事がないのかもと考えていたので一安心した．私だけ休みだと思っていたと打ち明けると，そんな細かいことを型枠解体屋はしないといわれた[34]．

達也さんたちを送って，事務所に裕太にーにーと帰るときに，裕太にーにーがいろいろ教えてくれた．玉城とヘルメットに大きくかかれている従業員は，清志にーにーといって今までに刑務所に数回いっていること，覚醒剤でいくのだが最近は落ち着いてきたということ，前回は１年も持たなかったのに今回は出所してから２年以上踏ん張っていること．清志にーにーは，私にも仕事を丁寧に教えてくれる現場の先輩だ．裕太にーにーは清志さんを「使えない」といったが，沖組が清志にーにーを雇うこと自体に感動した．たぶんまたいつかやるんだろうなと，社長や事務所も思っているのかもしれないし，そこまで考えずにただどんな人でも仕事さえしてくれればいいと考えているのかもしれない．ただ，そんな推測より，現場で清志にーにーが私に指導してくれたり，「お疲れ」とあいさつしてくれたのは，清志にーにーが，沖組で安心して働いているからだろう．やや失礼だが，清志にーにーを雇う沖組は，結果的に社会貢献していることは間違いない[35]．

2.10　トンヅラという年休

３月１日（土）10日目．今日はＲ町のＢ地域の予定だったが，Ｂ地域に１度到着してから社長から電話があり，自分らの班は他のＲ町の新しい現場で作業．今日はなぜか裕太にーにーはバイクで移動して，達也さんが現場号の運転手．今日の現場は２階建てのアパートで隣の建物と隣接していて作業場所がかなり狭い．今日は伊礼さんと一緒に作業することになる．どこの現場かは事務所から指示があるが，具体的に現場で私がなにをするかは現場にいってみないとわからない．ひとつの現場には複数の班で作業していて，難しい仕事は自分らの班の若いベテラン３人がだいたい行う．スラブはずしや鋼管切りという作業がそれだ．その時はだいたい自分は孤立してしまうが，いつも他の班の伊礼さんなどのおっちゃんがいろいろ教えてくれる．裕太にーにーと翔さんが隣のビルとの間に入り，外側の鋼管をきって，ついでにスラブはずしまでする．そして２人が外した鋼管やベニヤを２階で受け取り整理するのが，私と伊礼さんの作業だ．２人とも私より大きい体なのに，素早く狭いところで

作業していた．

その作業中に，現場には弁当屋がくる．なんとか休憩明けも無事に作業を終了し昼休みに突入．もちろん昼休みは現場号で昼寝だ．あれっ，そういえば裕太にーにーが10時休憩あたりからいない．なるほど計画的にトンヅラするために今日はバイクだったようだ[36]．しかし，こういう日に限って社長が現場にくる．そして社長がひとりきただけで，作業効率は少なくても1.5倍はあがった．社長は現場を一通り見渡して誰がなにをするかを的確に指示をして回った．達也さんに指示されて階段の型枠を外していた私は，即効で単純作業のＣボルトにまわされた．社長の滞在は30分ほどだったが，空気がとても緊張した．あとから裕太にーにーに聞くと，いまでこそ現場を退き事務室で指示をしているが，昔はすごい班長だったらしい．

2.11　見えないものが見えてきた

３月３日（月）11日目が始まる．フルメンバーでまた新しい現場へ移動．今までの作業は建てられた建物の解体作業であったが，この日は今から建物を建てるための土台の解体作業．地下に掘られた穴に型枠を組み，そこにコンクリの土台が作られていた．ただ作業はほぼ同じで，鋼管きって，Ｃボルトと Ｐコンを外して，材料をそれぞれ積んでいく．５人での作業だったが１時間で終了．暗黙の了解で，分業が起こった．私以外の４人は，鋼管切りと材料だし，そして荷造り．私は，Ｃボルト＆Ｐコン．両者の分業がぴったりはまって同時に終了する．特に意識したわけではないが，この暗黙の分業を指示されることなく私もわかって動けたことに驚いた．いい調子だ[37]．

９時過ぎにはこの現場は終わって，そのままＲ町Ａ地域の現場に移動した．午前中は，スラブはずしで，私もテストで入り口の小さい部屋のスラブはずしを任された．その後，２部屋分のスラブはずしと鋼管運びを行った．スラブはずしをやったが，この前と同じように自分がやるとなぜだかはがれない．私がグズグズしていると，浩二さんが反対側からはがしたベニヤが波のように連続して落ちてきて私が作業している天上まで落ちてきた．私が叫びながら逃げると，反対側にいる浩二さんと達也さんは大爆笑していた．危なかったものの現場でこんなに爆笑する２人をみたのは初めてだった．

昼あけは，サポートをひたすらはずして運ぶ．３部屋分を４人がはずして，私が部屋の隅に立てる分業体制．裕太にーにーを手伝う時は，裕太にーにーの流れ作業のペースに合わせるのできつい．一方で，倒れているサポートを自分だけが立てる作業は自分のペースでゆっくりできるので少し楽だ．後から気付いたが，これは２日目にシュンさんがバケツリレー方式で材料だしを行った時と逆のパターンである．私は作業を自分のペースで行えるので楽だが，これではいつまでたっても一人前になることができない．バケツリレー方式で運ぶということは，使えない労働力を根こそぎ使うという側面と，流れ作業に組み込んで使えないヤツを使えるようにシゴキあげるという側面がある[38]．

やっとのことで３時休憩に突入．自分らの班で飲み物を飲みながら，ひでにー班の隣の部屋で休憩してる17歳の少年について裕太にーにーが話した．「ひでにーの班で鍛えられたやんに，17から働いてえらいなあ．おうち，貧乏なのって聞いてみ」．最後はやや言い過ぎだが，現場で他の班の若い従業員を誉めるということは最大の評価といってもいいと思う．かなりの短期間でほとんど一人前の内容の仕事ができる彼はすごかった[39]．その流れで，自分も朝に指示を受けることなくＰコンやっていたことを誉められた．「今朝，Ｐコン言わないのにはずしてたさー．水たまってる足場でＰコンはずす時に，自分で水抜きすればいいのに，自分の（防水用の足袋を履いた）足みてるさあね．やってくれみたいな目で・・」．裕太にーにーが，おそらく冗談で久米島遠征いってくればと誘ってくれる．

しかし，浩二さんに「こいついかしたら，船賃と引き合わんだろ」といわれた．まだまだのようだ．ただ昨日休んだ時に「浩二が，打越がいないからおもしろくないていってたよ」と教えてくれた．からかわれているんだが，初日の浩二さんの雰囲気を思い出すとよくここまできたと思う．

３時あけは，サポート，角材などをステージまで材料だしして，本日の作業も無事終了．今日は裕太にーにーが運転手で事務所へ帰る．しかし，この日は現場の出口で守衛と口論になった．出口は右折禁止だが，朝会にほとんど欠席の裕太にーにーはその連絡事項を知るわけがない．左折を指示する守衛にむかい「そんなの知らん．今（車が）いっただろ，みんな右折してるだろ」．やばい．「朝会で確認してるように・・」と守衛も応戦．裕太にーにーは，「聞いてない，あれ車きてる．どかんと」と無理やり右折した．裕太にーにーが私に朝会で言ってたのかと確認したので，「一応朝会では言ってましたよ，右折禁止とか場内は一方通行とか・・」と伝えるも，「朝会でてんのに」と裕太にーにー．

2.12　事件勃発

３月５日（水）12日目．今日もフルメンバーでファミマによってＲ町Ａ地域の現場へ．裕太にーにーは久しぶりに朝会とラジオ体操に出ていた．体操後に，「安全帯は必ずしましょう」と，「くわえタバコは止めましょう」と現場監督がアリバイ作りのように確認していた．おそらく現場監督もそのことはわかっている．８階まで安全帯を腰につけて徒歩で登り10分程度タバコを吸うことが準備運動の変わりだ．その後は，はっきりと雰囲気が代わりみんな集中して作業に移る．この切り替えは，暗黙の了解なのでこれは現場で生まれた怪我を防ぐ技のひとつである．しばらく，材料だしを手伝った後，裕太にーにーのスラブはがしの手伝いをした．作業中に，昨日と一昨日と出口の守衛と右折禁止をめぐってトラブルになった件で，沖組の翁長さんが現場監督に呼ばれたようだ．もちろんこのようなことは度々あることで，翁長さんも裕太にーにーの代わりに現場監督から注意を受けて，実際には裕太にーにーを注意することなく事は収まる．しかし，この日はそうはいかなかった．そのことを知った裕太にーにーは，仕事を中断して直接出口にむかった[40]．やばい．しばらくして，なぜか私が山城さんに呼ばれて出口の裕太にーにーと守衛のところに行けと指示を受ける．なんで自分が？もっとやばくなってきた．私はなにをすべきなのかまったくわからないまま，出口の守衛室付近に行くと，裕太にーにーが血相をかえていた．やばい．「帰るから車出して」，「はっ，はいっ」．理由なんてわからないし，聞く勇気もなかった．そのまま助手席に乗って，裕太にーにーが運転してこのＲ町の現場を去ろうとした．出口付近で言い争った警備員に車でひきそうなくらいまで近づき，「おまえが帰るとかいうから，俺が帰ればいいんだろ．もう俺この現場こんから上に言うなよ」と裕太にーにー．警備員は黙ってた．車はそのまま国道を南下した．車内にて，「あいつが帰るとかいいだすから，面倒くさいから自分が帰る，親父にまたあびられる（怒鳴られる）やっさー．３月は東京行ってナオキと引っ越しやろうやっさー．解体屋辞めた．あーイライラする，あの警備員．嫌がらせしたいやっさー」．その後，Ｒ町Ｂ地域近くのホッパー（コンビニ）で奥さんと合流し，「翁長に警備員が帰るとかいうから，自分が帰るからって伝えて，あとゴメンって謝っといて」と伝言を受け取り，自分は現場に戻り，裕太にーにーは奥さんと帰宅した[41]．

現場に戻ると入り口で，警備員と現場監督がなにやら話し合いをしている．私が現場に帰ろうとすると，「沖組さんは，いつも右折してるよ」と現場監督．「すいません，入るときも左からじゃないとダメなんですか？」，「そうですよ，聞いてないの？」，「はい」，「朝会でた？」，「今日は出ました

よ」,「ほんとに？嘘でしょ？」,「いえ体操しましたよ」,「沖組さんはみんなだよ．しっかり伝えててよ．言ってるはずなんだけどなあ」．現場に戻り，裕太にーにーの伝言を翁長さんに伝えると「大丈夫，気にすんな」と一言．そのまま，材料だしに戻る．ナオキも他の組で働いていた時に，ケンカして現場から帰ったことがあるらしい．そのまま，10時休憩なしでスラブおとしされたベニヤを拾い集めた．「(ベニヤを立てる時は）ハンパとサブロクをわけなくていいですよ．どうせあとから釘抜くときに分けますから」とマナブさんに教えてもらう．丁寧な言葉で教えてもらうと，逆に怒ってるように聞こえる．叫ばれたほうが，怒ってない感じがしてきた[42]．その後は，角材の釘抜きを約50本行い，角材の材料だし．２本運べそうで運べなかった．まだまだ先は長い．

昼休憩は，私が運転手でファミマへ行く．問題の出口では達也さんの強い指示で右折して行った．そのままいつも通りに飯食って昼寝．13時直前に起きてそろそろ準備を仕掛けたときだった．「俺もトンヅラするか，家まで送れ」と浩二さん．「う？」,「俺も？？」．確かに裕太にーにーは途中で帰ったけど・・．よくわからないまま，浩二さんの指示に従い，現場号を運転して現場を後にする．車内での話によると，トンヅラは現場長の翁長さんにはばれてもいいが，親父（社長）にばれたらほんの少しやばいらしい．もし親父にばれてもクビにはならんだろ，と言ってたが．当初は家に送る予定だったが，いつのまにかマシン屋（パチンコ屋）に連れて行かれる[43]．浩二さんを降ろし，１時半過ぎにＲ町につき，インパクトを持って現場に復帰した．早速，達也さんと翔さんとでベニヤ板サブロクを３セット．その後もサンギ，チリなどの材料だしをして，３時過ぎに３時休憩．垣花さんが私に飲み物をご馳走してくれる．マナブさんにお使いを頼んでポカリを飲んだ．垣花さんは，私の地元の呉でヤクザをやっていたという．呉の中通で朝まで飲まされて運転手をしていたようだ．事務所に帰ったら，酔っ払って歩けない組員を放り投げて帰ったよと当時の話を聞かせてくれた．「呉はいいところでしたか？」と聞くと，「うん，飲み屋しか行ってないけど・・，これ（顔を切るしぐさ）が多い町だよ」と垣花さんはこたえてくれた．現場にはこのようにいろんな人がいる．沖縄は，いつも日本社会の都合のいいように振り回されてきたが，具体的に振り回された一人ひとりのおっちゃんは，ここに帰る．

こんなことを考えながらも，今日は少し早めの５時には解散した．帰りの車で浩二さんのトンヅラについて達也さんに聞いた．「翁長はわかってたよ．浩二帰ったっていってたから.」みんな，時々トンヅラするようだ．翔さんを車がとめてあるＤ地域まで送って，マシン屋の前で裕太にーにーに電話する．そのままＴ町インターチェンジ付近の児童施設に行くと，裕太にーにーと娘さんがいた．今日はあの後１日中寝ていたらしい．やっと，今朝のことが聞ける雰囲気になっていたので聞いてみた．「(警備員が）態度がわるいっていうから，俺のどこが態度が悪いば？」って裕太にーにーがあくまで「確認」をしたらしい．そしたら，警備員が「いったー（おまえら）が右折禁止で右折するからだろ」と言ってきたものだから，裕太にーにーは「いったーって誰にむかってもの言ってる？おまえこそ態度が悪いだろ」という展開だったらしい．裕太にーにーは，ただ「確認」に行くだけだったがいつのまにか現場から帰ってたといって笑わせてくれた．「(トンヅラは）５年働いた人しかできないよ．真似したらダメよ」と裕太にーにー[44]．裕太にーにーは達也さんと，今日のトンヅラが親父にばれているかどうかをしきりに確認していた．裕太にーにーにも怖いものがあるようだ．事務所手前に車を止めて，事務所横にある暴走族のアジトでバイクの改造を手伝い，本日は解散．いろいろあった１日だったが，いろいろ見えなかったものが見えてきた１日になった．

2.13　ホテルの現場

３月７日（金）13日目．午前中は，R 町 B 地域の現場屋上でサンギの釘抜き作業．ひろしさん，健二さん，喜屋武さん，山城さんらに最後のあいさつをして，自分らの班は次の現場に移動．私が運転手で，国道をひたすら北上して L 市のホテルの現場に到着．途中に，うずらのてんぷらがうまい弁当屋によって，てんぷらとサンドイッチを買う．だいたい移動する時は現場仲間で人気のある弁当屋やてんぷら屋によることが多く，そしてだいたいうまい．L 市のホテルは，上まであがる足場が狭くて，かなり面倒な現場だった．チリを集めて本日の仕事終了．

それぞれの従業員の作業は，監獄みたいに一望監視されてはいない．かといって班ごとに連帯責任があるわけでもない．むしろ班ごとに沖組と関係が存在する．ひとりがトンヅラしてもみんなで口裏をあわせてなかったことにすることもある．おそらく親父さんもそのことは現場あがりの人だから知っているのだろう．トンヅラは年休とみなすくらいの寛容さがないと，この仕事でトップに上がれないような気がする[45]．そういうことから，時々現場にくる程度がちょうどいい．

2.14　給料日＆ボーリング大会

３月８日（土）は翌日深夜12時くらいに電話で休暇が決定した．これで明日はボーリング大会だけなので，これで１ヶ月にわたる仕事は全て終わったことになる．この日は夜のボーリング大会＆飲み会のためたっぷり睡眠をとった．夜７時から沖組ボーリング大会だ．まず，事務所でもらった．１日6,500円，合計84,500円が私の給料だ．意外と日給があった．浩二さんたちからは2,000円分しか仕事してないだろと言われた．社長は，くわえタバコを頭越しに否定する現場監督に文句をいっていた．吸える場所を増やすなどの工夫をしないと，仕事できないよといっていた．やはり現場あがりの人は現場のことをよくわかっている．そのまま，３人で T 町のボーリング場へ行き，翔さん，達也さんたちと合流．私，裕太にーにー，浩二さん，翔さん，達也さん，鈴木さん，などなど．沖組の他の班の人たちだ．達也さんが泡盛セットをおごり，みんなで飲みながらボーリング大会は始まった．その後は，結局朝まで盛り上がった．

充実した１ヶ月だった．ただ型枠解体屋の民族誌を書くのに１ヶ月はあまりにも短い．それに加えて，１ヶ月で13日しか働いておらず，また私は学生という身分で，しかも裕太にーにーに紹介されたことで，見えたはずのものをたくさん見過ごしている．もし私が裕太にーにーの知り合いでなかったら，またもし私が中学を卒業してすぐにひとりでこの現場に入っていたなら．おそらく，異なったものが見えていたはずである．そのような制約のもと以下の考察は展開される．

3　考察編

ここでは上の民族誌をもとに，最初に述べた仮説を検証していく．まずは先行研究との関連を明らかにしておこう．

本稿と同じく日本の建築業界への参与観察をもとに社会学的考察を行った論者に岸政彦と渡辺拓也がいる．岸は大阪市内の型枠解体屋で２ヶ月間にわたる参与観察を展開した．そこでは「資格審査」を通じて張られた新参者へのレッテルが，その後の現場への適応過程に強い影響を与えることが指摘される．大阪のヤンキーやホームレスが現場にいかにアクセスし適応もしくは排除されるかがダイナ

ミックに描かれる（岸 1996）．それに対して，本稿は対象を下層若者に限定するかわりに，彼らが現場に入る前の地元の世界と接続される過程に焦点を拡げる．沖縄のＴ村の地元の暴走族少年らが，おなじ地元にある沖組に接続される過程に限定して議論する．その暴走族のリーダー的存在であり，また沖組社長の長男である裕太にーには，二つの社会をつなぐ橋渡し役を担っている．ここでの議論は，このような特殊なケースをもとにしているが，新参者が現場に適応する過程のミクロな政治をみるには有効な対象である．

続いて渡辺は，大阪の寄せ場・釜ヶ崎の飯場から通う形の参与観察を実施した．それを通じて，彼は現場で必然的に生じる作業ロスを補う潤滑油として「怠け」を捉え，それをもって労働概念の根源的な検討を行った（渡辺 2009，2010）．彼の指摘をふまえて，本稿では作業ロスが生じやすい新参者の現場への適応過程において，地元の知り合いによる紹介も潤滑油として機能している点に注目する．本稿の問題関心は２人と大きく重なる．ただ本稿は沖縄の若者が地元や現場における班といった小規模な集団を通じて適応する過程に限定し，その機械的連帯の意義と限界をみることに焦点を絞って議論する．

また本稿の理論的な関心は，Durkheim の社会分業論にある．それをもとに，マクロ／ミクロそれぞれの水準で生じる分業を民族誌をもとに詳しくみていく．どのような分業がどのような条件によって生じ，またこの分業体制に現代的趨勢であるネオリベラリズムがいかにきいているのか，といった問いを展開する．それらを通じて，ネオリベラリズム，分業，そして機械／有機的連帯，それぞれの概念のより原理的な理解をめざす．

3.1　考察のための概念―分業とネオリベラリズム

型枠解体屋における分業の内実と，ネオリベラリズムによるその変容を議論するために，まずは分業とネオリベラリズムをめぐる今までの議論を簡単にたどっておこう．

Adam Smith によると分業が有効となる要因には，３つあるという．１つ，分業することによって作業が単純化され，その結果作業が熟練すること．２つ，分業することで作業と作業の間の移動時間を省略できること．３つ，分業することで機械化が進むことである（Smith 1776＝2000：１巻29）．そして，彼はその分業が有効に機能した結果，生み出された諸国民の富（生活資料）によって，国内産業の経済成長に貢献できることを示した．それは，貿易を重視する重商主義とそれにもとづく植民地主義の展開に対して，経済活動を自由化すること（見えざる手）による乗り越えを目指した．その論理の基盤にあるのは人間の交換性向と自愛心である．

Smith にとっての分業は，あくまでも富を蓄積するためのものであったが，その社会的側面に注目したのが Émile Durkheim である．彼は，近代化に伴い未開社会の直接的な類似性に基づいて形成される機械的連帯から，文明社会の自立した個人による特殊性にもとづいて形成される有機的連帯（分業）といった社会的連帯の変化に注目した（Durkheim 1893＝1989：上251-2，上299）．そこでは分業こそが社会的連帯を生み出し，またそれは道徳的秩序の根底となるものとみなされた．

Smith が人間の交換性向と自愛心が分業を支えるものと考えるのに対して，Durkheim は機械的連帯のもとにある環節型社会から有機的連帯のもとにある有機型社会への変容によって分業を説明する．Smith が交換性向と自愛心をアプリオリに設定するのに対し，Durkheim は社会類型の変化をその基盤に設定している．ただこれらの違いはあるものの，２人とも分業を肯定的に捉える点は共通する．Smith は分業による富の増大と見えざる手によるその調整から分業を評価し，Durkheim は分業

による新たな連帯を説明した．

ただ現代社会は2人が思い描いたものとは程遠いものとなっている．Durkheimが分業による連帯が導かれない異常形態として提示した無規制的分業と拘束的分業が蔓延している．前者は有機的に機能し合わずに過度に専門分化し，相互に無関心で相互関連が欠如した状態であり，後者が適材適所ではない状態の分業である[46]（Durkheim 1893＝1989：下 193–256）．分業は富を増大したものの見えざる手はそれを諸国民に公平に分配せず，また直接の植民地支配は見えなくなったもののグローバリゼーションのもと途上国への新たな搾取形態は急速かつ強烈に展開されている．この要因についても，以下で考察したい．

なお，ネオリベラリズムとは，「あらゆるものが金融化され，資本蓄積の権力の中心が所有者とその金融機関に移り，資本のその他の部門が衰退すること」と定義され，本稿でもそれを用いる（Harvey 2005＝2007：28）．その影響は，経済領域に限られた現象でなく生活世界をも浸食していく力である．またそれは市場原理を推し進めるために，国民国家と手を組むことさえある．その結果，労働力の配置転換を急速に進めるネオリベラリズムは，今まで以上に機械的連帯を有機的連帯に推し進めていく．

3.2　有機的連帯と機械的連帯の相互補完的関係

ここまで社会類型に対応しながら社会的連帯が変化する過程をDurkheimの議論からみた．それに倣えば，マクロな視点からみた型枠解体屋は，作業が早く，正確に，かつ安く行われる会社であることが求められる．つまり，沖組は労働市場という有機型社会では，その社会を支える存在の一部である．また沖組のなかでもそれぞれの班は事務所の社長の指示にしたがって，作業場所や作業内容を流動的に配置転換される．その点で沖組内部における班も沖組を有機型社会とみれば，その社会を支える存在の一部である．この水準では沖組もまたその内部の班も有機的連帯を形成している．Durkheimはこのようにマクロな社会類型の違いによる社会的連帯の変化について論じた．

ところで水田洋は，技術的分業（作業内分業）と社会的分業（職業分業）の区別を明確にする必要性を指摘した（水田 1997：135–9）．それに倣えば，社会的連帯は，マクロな職業分業ではもちろん，よりミクロな作業内分業でも生じていると推測できる．以下で展開する議論のために，本稿における社会的連帯の定義を行っておく．機械的連帯とは類似性によって，また有機的連帯とは特殊性によって，それぞれ社会を構成し，またその社会に生きる人びとの具体的な連帯を形成する社会的連帯と定義する．類似性とは，価値，文化などが類似していることをさすが，ここではそれに加えて隣接性，時間と場所を共通することで価値や文化が類似していくこともそのつながりの原理として含める．またここでの連帯は，集合意識というより直接的なつながりと限定して議論する．

それに従えば，労働市場における沖組と他の業者の関係や，沖組の中のある班とその他の班との関係は職業分業にあたり，そこで沖組やその班は，その他の業者や班と特殊性による有機的連帯が形成される．一方で，作業内分業における，班のなかのそれぞれの成員は労働力としては有機的連帯を形成するが，それは類似性にもとづく地元の知り合いの紹介によって支えられたり，作業内分業の過程で生じる移動や休憩時間に交わされるコミュニケーションによって，よりスムーズに熟練化が生じている．ここでは，有機的連帯が機械的連帯に支えられている．つまり，特殊能力を持つ労働力としての各成員の役割は班という有機型社会を支える存在の一部である．ただ班は有機型社会であると同時に環節型社会でもある．つまり二つの社会的連帯は，機械的連帯が有機的連帯に変化するという単線

的な関係にあるだけではなく，相互補完的ともいえる関係にもある．

Durkheim の説明からこの関係をみてみよう．彼の説明を大雑把に整理すると，機械的連帯は有機的連帯と逆（反）比例的な関係にある[47]．そして機械的連帯の基礎となる環節型社会は消滅すべきものである[48]．しかし，有機型社会において機械的連帯は存続している[49]．そうであるならば，環節型社会によって支えられていた機械的連帯は何によって支えられるのだろうか．これについて彼の説明は不明な部分が残る．

これについて上の民族誌からみていこう．建築現場の仕事は，単純作業ではなかった．型枠解体屋の仕事は，細かい技にあふれ，特に「段取り」を把握することが重要な熟練作業である．班長ともなると，全員の動きを把握して，現場の終了時間を予測する必要があった．また型枠解体屋は，誰もが出来る仕事ではない．多くの新参者が現場で淘汰されていく．そこで生き抜くためには，体が丈夫なことはもちろん，その他にもその力を有効に使用する技を真似る知性や，現場でのうちなーぐちやコミュニケーションの形式を獲得するためには現場に親和的なヤンキー文化を習得していること，そしてなかでも知り合いが現場にいることが重要であった．そのような条件の重要性を認めつつも，最終的には型枠解体屋という有機型社会の一部に労働力として配置された者のみが現場で長期間にわたり安定して働くことができる．現場に残るためには，ある特定の能力（体力）を持っていること，言い換えれば現場という有機型社会で重要な役割を担う存在となることが欠かせない．知性やうちなーぐち，そして知り合いの有無は，そのために必要条件ではあるが十分条件ではない．あくまでも労働力として配置されることが現場に残るための条件である．この点で，型枠解体屋は有機型社会である．この過程を新参者が社会化される過程から詳しくみよう．ただ，社会化はすべての新参者になされるものではない．その条件としては，私のように地元の先輩の紹介であること，または同時期に働き始めた少年のように現場の文化と現場のペースに急速に適応できることがその条件であった．

まず調査者である私の社会化からみていこう．私は，沖組に，地元の暴走族でのつながりをきっかけとして，裕太にーにーの紹介で入った．このように地元の暴走族から沖組に入るケースは，私だけでなく沖組で働く者の多くがＴ村の暴走族関係者かその知り合いである．また私たちの班に限定すれば，翔さん以外はすべてその暴走族出身者であった．裕太にーには18歳から10年にわたる下積みで現場ではベテランの部類に入り，仕事が抜群にできた．彼の紹介のおかげで私は極端に体力がないにもかかわらず，比較的好条件で現場に入ることができた．私を含む地元を通じて供給される新参者の多くは，なにか特殊な能力があるわけではないため，いきなり有機型社会に配置されることは困難である．その新参者は一人前の労働者としてシゴキあげられる作業内分業の過程で特殊性を帯びた労働力として有機型社会である沖組やその班に配置されるようになる．具体的には，作業内分業に配置される過程におけるシゴキ，そのひとつである肩筋を付けること（身体の矯正）によって建築現場の作業員になっていく．ここでは，地元の知り合いの紹介，つまり社会関係資本によってある猶予期間を与えられ，働けないが現場にある期間は存在していてもいい感覚を与えられる．そして，そのうちに社会関係資源が身体資源へと転化することで，現場における有機的社会に労働力として配置される．作業内分業のレベルでは，労働力として有機的連帯を形成することと，地元の類似性にもとづいた機械的連帯によって新参者を熟練させることは並存する．その結果，型枠解体屋で働き続けることで，仕事へのやりがいや誇り，チームワークのようなものを感じることもあった[50]．

続いて，Ｈ町の17歳中卒の少年のケースをみていこう．彼は，誰が教えるわけでもなく１週間で仕事を覚え，サポートを２本持てるようになり，現場で評価されていった．その結果，休憩時間にしー

じゃー（先輩）や裕太にーにーから話しかけられたり，からかわれたりすることで現場に溶け込んでいった．このように，始めから現場に適応できる特殊能力としての体力を持つ新参者は，直接に身体資源を用いて，経済資本（賃金）につなげることはもちろん，それによって有機的連帯に配置され現場における同じ班の作業員との時間と場所の共有が必然的に生まれる．それにより，そこからは類似性が発見されることで新たな機械的連帯を生み出していた．

ここからわかることは，地元の知り合いで入った新参者を作業内分業に配置してシゴキあげることは，機械的連帯をもとに有機的連帯を形成する事例であること．またほぼ完成した労働力を作業内分業に配置することは，有機的連帯をもとに機械的連帯を生み出す事例であること，である．新参者が作業内分業に配置される過程では，機械的連帯が有機的連帯へと単線的に発展するものではなく，有機的連帯になった後も機械的連帯がそれを支えていること，また有機的連帯をもとに機械的連帯を生じさせていることを確認できる．そして，それは作業内分業におけるシゴキ（身体の矯正）と，現場間の移動時間や休憩時間のコミュニケーションによって生じた班内部の成員にとの類似性にもとづいた機械的連帯によって生じていた．移動時間は，Smith によれば分業を有効にする要因と相反するものであった．しかし，その時間は機械的連帯を生み出す条件でもある．現場に残るためには有機的連帯は重要であるが，その有機的連帯は機械的連帯によって支えられていることを確認できる．

3.3　機械的連帯を欠いた有機的連帯とネオリベラリズム

今回の参与観察は型枠解体屋の内部から，つまり地元の先輩に紹介された形で私は現場でシゴキを受けた．他方で沖縄の暴走族とその周辺に生きる若者への調査からは，以下のような語りに頻繁に遭遇した．

> 半年間，建築現場でシゴかれた．自分は負けず嫌いなんで，〔途中で辞めずに，自分をシゴいてたヤツらに〕最後には認めさせた．上下関係が一番厳しいのが，沖縄．現場で働いてたら，ハンマーが飛んでくるし，安全靴で蹴られる．建築現場でのリンチはあたりまえ．ヤンキーだった人なら，みんな知ってることよ，こんなの．〔先輩が後輩をシゴく時に〕本気と手加減〔の違い〕をわかればいいんじゃない．（タクヤ　2007年９月３日深夜　国道58号線沿いの宜野湾市内のマック内駐車場）

この語りは地元やその暴走族で生きる若者によるものではなく，外部との境界に生きる若者によるものである．タクヤによると，沖縄の建築現場で暴力が蔓延していること，タクヤがそれを区別して捉えていることを確認できる．彼は建築現場の暴力には「本気の暴力（リンチ）」と，「手加減された暴力（シゴキ）」があるという．彼は，手加減された暴力は本気の暴力と異なるという感覚を，日々の建築現場で学んでいる．彼は，自分に行われた暴力は手加減された暴力であり，最後には先輩を見返すほどの力をつけたという．手加減された暴力は，伸ばし，正すための暴力である．これに対して，たんに相手を脅すために行使される本気の暴力としてのリンチがある．そこに手加減はない．タクヤはその種の暴力を見たことはあるが受けた経験はない．しかし，２つの暴力を嗅ぎ分け，自分が現場で正されようとしているのか，不必要な労働力として排除されようとしているのかを判断することは，彼にとって重要である．そこには，社会化装置と不可分の統合のための暴力としてのシゴキと，たんに集団成員を物として扱い，使えない同僚を排除するための暴力としてのリンチがある．上で紹介したエイサーで暴行にあった正輝のケースからは，地元青年会によるエイサーも建築現場と同

様の傾向を持つ．沖縄の強力な共同体主義がもとに形成された地元は，ここで包摂だけではない排除の顔をみせる．

本稿で扱ったケースにもとづけば，この包摂と排除の分かれ目は，使えないヤツかつ知らないヤツか否かということになる．そのような新参者を育て上げるシステムは，現在早急に解体しつつある（打越 2009）．またそこでネオリベラリズムはほぼ完成した労働力のみを作業内分業に推し進める．また，社会的分業の領域でも労働者をシゴキあげる熟練化の領域が縮小し，また移動時間や休憩時間は整理縮小される．これは Durkheim のいう分業の異常的形態であり，ここから彼のいう有機的連帯は生まれない．有機的分業が形成されなければ，それに伴い作業内分業においてそれを支えていた機械的連帯は不要となるし，またそれから生み出されていた機械的連帯も形成されない．ネオリベラリズムは，市場原理にもとづいて分業を徹底的に進めるが，そこで有機的分業を支えている機械的分業の存在を見過ごすことで，有機的連帯をも解体させつつある．

3.4 有機的連帯とネオリベラリズムを支える機械的連帯

最後に Durkheim のいう分業による連帯はなぜ起こらないのかを，民族誌をもとにみる．彼は有機型社会における連帯について以下のように述べる．

> 〔有機型社会では――打越〕彼らが従事している社会的活動の特有性によって，集団生活を形成するのである．彼らにとっては，自然のそして必要な環境は，もはや出生上の環境ではなく，職業的環境である．各個人の地位を現わすものは，真実の，或いは，擬制上の血縁関係ではなく，彼が果たす機能である．（Durkheim 1893＝1989：上300）

彼は有機型社会では特殊な機能（能力）を持つ個人が連帯を形成すると説明する．しかしそのような個人はほんの一握りであり，その他多くの人間は労働力として配置転換され続けなければならない．そうであるならば，彼のいう分業の異常形態へとつながっていくことは避けられないのではないか．特殊な役割を持たない人間を異常形態に陥らない形で有機的連帯に組み込むにはどうすればいいのであろうか．それは上で取り上げた，地元の知り合いの紹介によって現場に残る事例に垣間見える．そこでは，有機的連帯が Durkheim のいうような特殊な能力を有する自立した個人によって形成されるだけではないことをみた．それは，類似性にもとづく機械的連帯である地元の知り合いが，当初は有機型社会に配置できなかった新参者をシゴキあげることで最終的にそこに配置し有機的連帯を形成していた．彼の議論では，特殊で唯一無二な，もしくは唯一無二までいかなくともある程度の特殊能力を個人が有することを前提に，分業によって導かれる有機的連帯に肯定的評価がなされる．しかしネオリベラリズムによって，過度に分業が進んだ有機型社会における労働力としての多くの人間の存在は原理的にそのような特殊能力を持たないし，むしろそのような特殊能力を持たない配置転換が容易な労働力が求められてきた．ただそのような個人によらなくとも，類似性にもとづいた機械的連帯によって特殊な機能や役割を持たない新参者が現場における分業に配置される，つまり有機的連帯を生み出していたのが上でみたケースであった．

ここからは，以下のことを確認できる．建築業界における型枠解体屋は代替可能で，型枠解体屋における班も代替可能である．班の内部でも，一人ひとりの成員は労働力として代替可能である．ただそれは同時に作業内分業の水準では，研修期間，移動や休憩の時間，また熟練化といった環境に生き

ていることで代替不可能な存在となることもみた．この両義性は必ずしも矛盾するものではないし，ここから直接に困難が導かれるわけではない．小田亮はこれについて以下のように述べる．

> 真正な〔ミクロ――打越〕レヴェルでも非真正な〔マクロ――打越〕レヴェルでも，社会を成り立たせるには代替可能な役割連関（ハイデガーのいう道具的連関，デュルケームのいう有機的連帯）が必要である．けれども，それだけで成り立っている非真正な社会とは違って，真正な社会においては，役割連関に代替不可能性・交換不可能性が滲み込んでいく．ただし，真正な社会の共同体に代替不可能性・交換不可能性が現れるのは，オリエンタリズム的な共同体概念において考えられているような共同体の閉鎖性によるものではなく，時間的な持続可能性ないしは「持続の期待」によるものである（小田 2009：232）．

このように現代社会に生きる人間の多くは，役割などの代替可能性と時間的な持続可能性とその期待にもとづく代替不可能性の社会を同時に生きている．Durkheim が見過ごしたことは，有機型社会における人間の多くは特殊な役割を持ってない，つまり代替可能な存在であること．しかしその人間は同時に，作業内分業や地元といった小規模の環節型社会では代替不可能な存在になりうるということ．そしてこのような両義的な連帯と，それを支える社会に我々は生きていることであった．

覚醒剤を繰り返す清志にーにや，私のような仕事のできない新参者は，ネオリベラリズムのリスク回避と急速な配置転換の論理に従えば，排除すべきものである．しかし，型枠解体屋のある意味で大雑把な労務管理（トンヅラという年休なども含む）によって，両者ともに現場の有機的連帯に組み込まれ，また同時に機械的連帯を生み出すことができていた．ここからは，無駄を徹底的に省こうとするネオリベラリズムは，それらの無駄があることによって支えられているという逆説を確認できる．

4　結論と今後の課題

未開社会から文明社会へと変遷することで，機械的連帯の多くは有機的連帯に替わった．ネオリベラリズムは，現在，それを強力かつ急速に推し進め，完成形を作りつつある．Durkheim のいうように，有機的連帯が強まると機械的連帯は弱まるというように，二つの連帯は逆比例的な関係にある．ただ逆比例的な関係とは，どちらかが完全に解体するともう一方も同時に解体するような相互補完的な関係でもある．このことを有機的連帯が機械的連帯に支えられ，また機械的連帯を生み出していることからみてきた．この説明によれば，ネオリベラリズムは，機械的連帯を有機的連帯へと推し進める．そして有機的連帯は機械的連帯に支えられ，それを生み出してもいる．結果として，その機械的連帯がネオリベラリズムを支えることになる．この循環のシステムが完成しているようにもみえる．しかし実際は，ネオリベラリズムによってすすめられた有機的連帯は，型枠解体屋におけるある条件によってのみ機械的連帯を生み出し，それがまた有機的連帯やネオリベラリズムを支えているのであった．その条件とは，小規模の集団である班で他の成員とのコミュニケーションをとる休憩や移動の時間があること，そして地元の知り合いの紹介によって生じる身体を型枠解体屋仕様に変えるまでの研修期間があること，そしてその結果，段取りの感覚や熟練の技術を習得することで有機型社会に労働力として配置されることであった．この同じ班の特定の成員と時間と場所を共有すること，つまり類似性による機械的連帯によって，特殊な能力の有無によらずとも，作業内分業といったミクロな水準では機能的連帯をもとに有機的連帯が形成されていた．

以上のことから，結論を以下の２点にまとめることができる．１つ，有機的連帯は機械的連帯に支えられ，かつ機械的連帯を生み出すということ．２つ，それを見過ごしている点に，ネオリベラリズムの根本的な過ちがあるということ．自らの効率性を求める政策，権力によって現場は動いているのではなく，有機的連帯はもちろん，機械的連帯によって，分業は Durkheim のいう異常的形態になることを極限のところで留めている．沖縄の若者はこのような二つの連帯に対応する社会を同時に生きている．

今後の課題は多いが，ここでは以下の２点をあげておく．１つ，本稿はマクロな社会類型によって変化する社会的連帯の議論を，ミクロな作業内分業の水準に適用して議論を展開した．しかし，２つの水準の関係は十分に整理できていない．マクロな水準における異常な分業の形態がミクロな水準における連帯にどのような影響を与えるのか．理論的につめる作業が必要である．

２つ，本稿で中心的には扱えなかった，キセツで働かざるを得ない沖縄の若者たちの緻密な調査と考察が早急に求められる．キセツとは，沖縄を出て働く季節労働であり，多くの沖縄の若者がそこで苦労した経験を持つ．契約期間を終了せずに途中で沖縄に帰るケース，また契約違反のケースも少なくない．そして型枠解体屋で肯定的に解釈した移動や休憩，研修期間などの時間，そして技術の習得が，キセツでは徹底的に排除される．他方でキセツ先の環境に適応するために沖縄人の相談役をおいたり，友人や恋人など複数の沖縄人を集団で雇うキセツの形態もある．このような容赦ない排除と巧妙な包摂を織り交ぜた形でキセツは展開されている．このような現状に支えられて成り立つ日本社会の批判的考察が求められている．

注

1 天井の型枠を支えるために長さが調節できる鉄製の円柱のこと．
2 縦横５cm，長さ1–8m 程度の四角い鉄筋のこと．
3 縦横10cm，長さ10m 程度の木製の柱のこと．
4 コンクリートに埋め込んであるねじを取り外す作業．
5 材料をビル内部から外部の足場へ搬出する作業．
6 ベニヤ板に剣山のようについた釘を取り外す作業．
7 現場での指導方法についての記述．
8 現場での作業内分業におけるシゴキを介した配置と，そこから導かれる安心感についてわかる記述．
9 現在志向についてわかる記述．
10 建築現場だけではないエイサーにおけるリンチについてわかる記述．
11 現場に溶け込むための班制度と移動時間についてわかる記述．
12 熟練業としての型枠解体屋についてわかる記述．
13 沖組にとって労働者の代替可能性についての記述．
14 同上．
15 鋼管やサポートを束ねるための針金．
16 現場への身体を介した適応についての記述．
17 熟練化についての記述．
18 機械的連帯をもとにした代替不可能性についてわかる記述．
19 言語で指導しない現場の文化についてわかる記述．
20 現場のステータスについてわかる記述．
21 身体能力にもとづいて作業内分業に配置されるのではなく，むしろその逆であることがわかる記述．また休憩時間の意義についてわかる記述．
22 現場での熟練技，怪我を避ける臭覚についてわかる記述．

23　機械的連帯をもとにした現場での指導についてわかる記述.
24　熟練のなせる技についてわかる記述.
25　機械的連帯を基にした現場での指導についてわかる記述.
26　バケツリレーにおけるシゴキについてわかる記述.
27　地元の知り合いが現場で優遇されるのは，地元の暴走族での武勇伝や失敗などのエピソードなどとともに紹介されるからである．休憩時間の重要さについてわかる記述．熟練になる過程では言語的指導はないので各自で真似るしかない.
28　分業の弊害と，型枠解体屋としての誇りについてわかる記述.
29　同上.
30　肩筋をつけるまでの猶予期間として，エピソードと一緒に紹介することが重要になってくる．肩筋がつくまでに辞める紹介なしの新参者と，紹介ゆえに猶予期間が与えられその期間に肩筋をつけて現場になじんでいく新参者の違いについてわかる記述.
31　時間の感覚と段取りを掌握する感覚の習得が熟練である.
32　たまにこういう作業員もいるが，極めてまれである.
33　現場の非言語文化についてわかる記述.
34　代替可能な剰余労働力についてわかる記述.
35　無意識の社会貢献，エピソードをもとに現場へ適応，代替可能な労働力から代替不可能な存在への過程についてわかる記述.
36　熟練の特権についてわかる記述.
37　機械的連帯をもとに現場に適応する過程についてわかる記述.
38　作業内分業に配置されながらシゴキが行われる過程についてわかる記述.
39　身体能力をもとに適応した事例.
40　現場での力関係についてわかる記述.
41　運転手としての私は現場の代替できる余ったコマである．現場ではこのように余ったコマがある程度必要である．また現場での力関係と親父さんの存在についてわかる記述.
42　知り合いへの指導とそうでない新参者への叱責についてわかる記述.
43　熟練の特権についてわかる記述.
44　５年が熟練の目安である.
45　現場の秩序形成についてわかる記述.
46　Durkheim によれば，これらの分業の異常形態は，分業に起因するものではないために，政府によって規制される必要はないものとして扱われる（Durkheim 1893＝1989：下202-12）.
47　二つの連帯が互に逆比例的に発展するように，これらの二つの社会類型は，一方（社会的分業によって確定されている社会類型）が進歩するにしたがって，他方が規則正しく退化してゆくというように，互に逆比例の道程を辿って進んでゆくのである（Durkheim 1893＝1989：上315）.
48　分業を窮屈に閉じこめている枠組から解放されてはじめて，分業は増大し発展することができるのである．分業がある発展段階をひとたび越えると，それ以後は，不変の環節数と専門的諸機能の常に増加していく数との間には，そしてまた，前者の世襲的に固定している諸特質と後者が必要とする新らしい諸能力との間には，もはや関連は存在しないのである．それ故に，社会的事象が全然別個の根底の上に組織されるためには，まったく新らしい組み合わせの関係に入りこまなければならない．しかし，この旧社会構造はなお余命を保っている限りこれにさからうのである．それゆえ，この旧構造は消滅してしまうことが必要である（Durkheim 1893＝1989：上300-1）.
49　二つの社会〔環節型社会と有機型社会――打越〕は，結局一つの社会をつくっている．以上の二つの社会は，同一実在の二面に他ならない（Durkheim 1893＝1989：上216）.
最も一般的な地域的諸区画を相互に結びつけている連鎖にしても，現代ヨーロッパにおける中央集権的国家におけるように，極めて緊密なものであることもあるし，また単純な連邦相互の間におけるように，よりゆるやかであることもある．だが，構造の原則は同じである.
またそれゆえに，機械的連帯が最も高級な社会にまでも存続しているのである（Durkheim 1893＝1989：上305）.

50 現場で仕事が順調に行われている時は，このような感覚が確かにあった．それに対し，裕太にーにーは「仕事は楽しくない」と語り，それらへのロマン化を否定してくれた．見方によれば，このチームワークこそが体に埋め込まれた搾取されるメカニズムでもある．ここで仕事への誇りややりがいにもとづく現場への包摂と，搾取の仕組みは不可分である．

参考文献

Durkheim, Émile, 1893, *De la Division du Travail Social,* Paris: Alcan.（＝1989，井伊玄太郎訳『社会分業論上／下』講談社.）

Harvey, David，2005，*Space of Neoliberalization: Towards a Theory of Uneven Geographical Development*, Franz Steiner Verlag.（＝2007，本橋哲也訳『ネオリベラリズムとは何か』青土社.）

岸政彦，1996，「建築労働者になる――正統的周辺参加とラベリング」『ソシオロジ』41(2)：37–53.

水田洋，1997，『アダム・スミス――自由主義とは何か』講談社.

小田亮，2009，「共同体と代替不可能性について――社会の二層性についての試論」『日本常民文化紀要』27：219–60.

Smith, Adam, 1776, *An Inquiry into Nature and Causes of the Wealth of Nations*, Indianapolis: Liberty Fund.（＝杉山忠平訳／水田洋監訳，2000，『国富論1–4』岩波書店.）

打越正行，2008，「仕事ないし，沖縄嫌い，人も嫌い――沖縄のヤンキーの共同性とネオリベラリズム」『理論と動態』1：21–38.

渡辺拓也，2009，「飯場の労働文化――労働者の行動様式の維持と再生産」『労働社会学研究』10：139–66.

――――，2010，「労働の中の『怠け』の役割――飯場労働における労使間の相互行為と意味づけをもとに」『理論と動態』3：55–70.

Willis, Paul E., 1977, *Learning to Labour: How Working Class Kids Get Working Class Jobs*, Ashgate Publishing.（＝1996，熊沢誠・山田潤訳『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房.）

［謝辞］

名前を書くことは控えますが，沖組のみなさん，T 村暴走族のみなさん，なかでもそれらの橋渡し役である裕太にーには，沖組の紹介，そこでのシゴキと非常にお世話になりました．現場のリアリティが読者に少しでも伝わったとしたら，それはにーにのおかげです．ありがとうございます．